

千西一遇 号外

発行2018年5月30日
上田西高校新聞委員会
編集局長 下形亮人
文・写真＝宮島純夏



硬式野球部

機動 北信越 破壊

第138回北信越高
等学校野球大会県予選が5月
12日（土）より行われた。投打に
おいてバランスのとれた戦いを見せた
上田西高校硬式野球部は、準決勝で松
本深志高校を下し、3季ぶりの北信
越大会出場を決めた。（春季北
信越大会は3年ぶり）

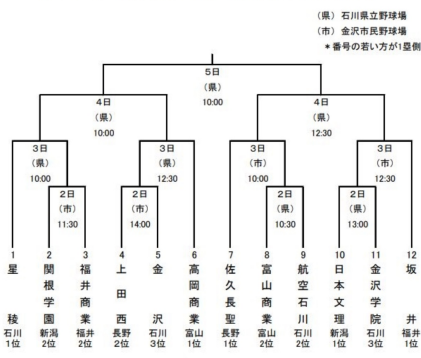
快速生かしチャンス演出

得点パターンの確立ができた事が
今大会最大の成果だろう。1番斎藤
慶喜、2番荒井朋範が塁に出て、ク
リンナップがしっかりランナーを
返すという形が出来上がった。斎藤、
荒井は50メートルを5秒台で走る
俊足。足で相手を翻弄し、多くの得
点に結び付けた。斎藤は「追い込ま
れたら内野安打でもいいから、とに
かく塁に出ることを考えている」
と話すと、荒井は「自分の持ち味を
発揮し、足で稼ぐことができた」と
それぞれ、東信、県大会を振り返っ

た。実際に、東信大会、県大会の決
勝以外は先頭打者の齋藤が初回に出
塁し、それが全て得点に繋がってい
る。今までは4番に座る塚田純平
頼りの所もあった打線も、3番宮
坂愛斗、5番一ノ瀬文哉の活躍で
機能し始めている。今後盗塁等の対
策を研究されと思われるが、その
上をいく走塁が勝敗に関わってくる
だろう。

「初球の甘い球を一発で仕留めてい
きたい」と斎藤は北信越大会に向け
て力強く語った。

第138回 北信越地区高等学校野球大会組合せ



↑北信越大会の組み合わせ（長野県高野連ホームページより）

↓ 上田西の1番を背負うことに対し「責任を感じる」と話すエース横尾虎之介は、変化球を低めに集めるなど抜群の制球力を見せ、チームの北信越大会進出に大きく貢献した。北信越の強豪相手にその投球が通用するかに注目が集まる。



強豪校との対戦が待ち望まれる。

エース躍動 「コントロールを重視」

投手では初めて1番を背負ったエース横尾虎之介が一人で投げ切れるようになったのが大きな収穫だ。投げ方を一から見直し、コントロールを重視した投球を体に叩き込んだ。140キロ前後のストレートと鋭く曲がるスライダーを武器に北信越大会出場の立役者となった。「塚田を目標としていた」という横尾は、冬の練習に人一倍力を入れ、たく

さん投げ込んだそうだった。横尾は「強いチーム相手に良いピッチングができた。コントロールと空振りを取ることを意識して試合に挑み、特にスライダーが多く決まってくれた」と話した。

○エース躍動に課題も
横尾の活躍は目立ったが、2番手以降の投手が伸び悩んでいるようだ。県大会の決勝で登板した小金澤飛漢、宮尾

この春季大会も大事だが、チームが目指しているものは甲子園出場がかかる夏の大会だ。春季北信越大会は、夏の大会に向けて今の自分たちの実力を試すいい機会だと捉えて

目標はあくまで「甲子園」

北信越大会に出場できることは選手にも大きな自信になるが、それはあくまで甲子園への通過点。原監督は「（北信越大会は）夏の大会の通過点ではない。強い所と試合が出来るいい機会だ」と話した。監督が目指すのは星稜（石川）と試合をすることだそうだが、そこまで到達するには2つ勝利が必要。仮に星稜を制することができれば決勝では日本文理（新潟）や選抜8強の航空石川（石川）との対戦の可能性もある。

主砲の不振も

これまでチームをけん引してきた塚田純平の調子が中々上がらない。原公彦監督は「4番の塚田がまだ打っていないが、夏に調子上げてくれればいい」と話した。また、「その代わりに今はみんなでカバーしている事を感じてほしい」と続け、主砲の奮起を促した。



復調が期待される4番塚田純平
現在までの試合では様々な選手が活躍している。代打で起用された工藤瑠哉、堀籠昌真はそれぞれ本塁打、3塁打を放つなど結果を残した。誰が打席に入っても積極的にバットを振ってという印象

チームで支えあう

が強く残る。1年生でメンバリー入りを果たした阿部巧雅、高寺望夢の活躍も光っている。

主将の小井出彪海は「選手が常にリラックスした状態で試合に臨めるように声掛けを意識して行っている。小技や機動力を生かして一点一点とつていければいい。応援してくれる人のことを忘れず、謙虚にやっていきたい」と話した。ここまでチームが支えあい、それがよい結果につながっている。